四條畷市議会議員（無所属）　一級建築士

作成：2018.06.21
市政報告07月号

長畑ひろのり News vol.127

(C)2013 Kohama Studio

本年度、四條畷市議会の役職

５月１８日に本市議会の役員選挙が行われ、平成３０年度の議長、副議長、監査委員（議員内選出）、そして、各委員会の正副委員長が決定しました。この４年間の役員選挙については以下の通りで、私は２年目の議長をさせて頂きました。

平成２７年度	議　長	瓜生 照代
	副議長	島　弘一
	監査委員	大川 泰生
平成２８年度	議　長	長畑 浩則
	副議長	吉田 裕彦
	監査委員	大川 泰生
平成２９年度	議　長	曽田 平治
	副議長	藤本 美佐子
	監査委員	大矢 克巳
平成３０年度	議　長	渡辺 裕
	副議長	大矢 克巳
	監査委員	小原 達朗

私の本年度の役職は「議決すべき計画に関する特別委員会」委員長と決まりました。その委員会において議題として決まっているのは、四條畷市総合戦略と空家等対策推進計画です。ただ、今後は増える可能性があります。

それ以外にも、昨年度より引き続き「四條畷市交野市清掃施設組合の監査委員（議員内選出）」をさせて頂いています。

ところで、１２人と議員が少ない中で役員選挙を議会の申し合わせにより、毎年行うのは議員になった当初より疑問があります。そこで、せめて２年ごとにと、昨年度も各会派の幹事長がメンバーの会派代表者会議で提案をしていますが、まとまっていないのが現状です。市議会と行政が対峙するためには、市長の任期が４年ですので、市議会の議長も４年、それが無理であるのなら２年は続けるべきと考えるからです。

また参考までに、本市１２人の市議会議員の期数、及び所属する会派を右上に書きました。

さすがに、議員活動が４４年目に入った大川議員の１１期は、群を抜いておられます。また、今期は新しい方が１人も当選をしていないため、全て２期以上の議員で構成する議会となっています。私ですが、期数だけで言えば本市議会の中堅議員、また議長経験者として日々活動しています。

①	１１期目	大川 泰生	（なわて政新会）
②	５期目	小原 達朗	（市議会公明党）
		岸田 敦子	（会派に属さない議員）
④	４期目	瓜生 照代	（市議会公明党）
		曽田 平治	（市議会公明党）
⑥	３期目	長畑 浩則	（畷ビジョンの会）
		渡辺 裕	（なわて政新会）
⑧	２期目	島　弘一	（畷ビジョンの会）
		藤本美佐子	（畷ビジョンの会）
		吉田 裕彦	（なわて政新会）
※ 下線は会派の幹事長です		森本 勉	（会派に属さない議員）
		大矢 克巳	（会派に属さない議員）

全国市議会議長会にて１０年表彰

私事で申し訳ありませんが、５月３０日に開催された全国市議会議長会において、永年勤続表彰として１０年表彰を受賞しました。そこで、６月定例議会初日（６月７日）の開会前に議場にて伝達式を行って頂きました。１０年も議員を続けてこられましたのも、ひとえに市民皆様方のお陰です、ありがとうございました。

ところで、議員になって１２年目に入っていますので、まだ１０年かと思われる方もおられると思います。実際、同期の渡辺議長は昨年に同じ表彰を受けているのです。理由ですが、私は１期目最終年の６月に議員を失職し２度目の市長選挙へ出馬したため、昨年５月の時点では１０年に満たなかったと言うことです。

長畑ひろのり　渡辺議長

毎月発行している“長畑ひろのり News”を、約半年ごとに送っています。
送付の必要な方は、送付先を FAX もしくは e-mail にてお知らせ下さい。

長畑ひろのり事務所　FAX 072-877-1280
e-mail　sky@nagahata.jp

http://nagahata.jp　Instagram　mixi　twitter　facebook　ココログ

府内市町村なんでもランキング

大阪府のホームページに“市町村なんでもランキング”と題して大阪市を除く府内市町村の平成２８年度決算より、いろいろな比率を用いて比較したランキングが掲載されています。特にその中で市民の皆様に関係のある「住民１人あたりの決算額」より２点をピックアップしてみました。

① 自主財源

順位	団体名	自主財源
01	田尻町	585,570
02	泉佐野市	402,986
03	摂津市	257,458
04	箕面市	246,050
05	吹田市	209,249
06	豊中市	207,169
07	高石市	202,022
08	岬町	201,815
09	東大阪市	187,622
10	茨木市	185,953
11	池田市	185,507
12	千早赤阪村	182,878
13	能勢町	181,803
14	島本町	180,559
15	守口市	179,918
16	泉大津市	179,290
17	大東市	174,989
18	忠岡町	166,588
19	枚方市	166,125
20	泉南市	165,849
21	門真市	165,136
22	高槻市	163,539
23	八尾市	161,900
24	富田林市	158,693
25	貝塚市	157,790
26	岸和田市	154,983
27	柏原市	152,401
28	大阪狭山市	152,398
29	和泉市	151,499
30	寝屋川市	149,273
31	交野市	149,071
32	四條畷市	146,798
33	太子町	146,597
34	豊能町	137,816
35	河内長野市	137,041
36	藤井寺市	136,773
37	熊取町	135,433
38	松原市	134,307
39	阪南市	129,874
40	羽曳野市	127,474
41	河南町	125,642

② 職員給

順位	団体名	職員給
01	田尻町	82,967
02	千早赤阪村	76,763
03	岬町	54,307
04	忠岡町	52,758
05	能勢町	52,016
06	豊能町	51,721
07	箕面市	47,905
08	河南町	46,449
09	太子町	44,182
10	富田林市	43,322
11	豊中市	43,014
12	泉南市	42,495
13	島本町	41,898
14	大阪狭山市	41,849
15	松原市	41,779
16	藤井寺市	41,394
17	池田市	41,306
18	摂津市	40,664
19	岸和田市	40,599
20	八尾市	40,189
21	吹田市	39,696
22	交野市	39,290
23	阪南市	39,190
24	熊取町	37,709
25	門真市	37,515
26	貝塚市	37,477
27	東大阪市	36,417
28	高槻市	36,384
29	高石市	35,940
30	枚方市	35,584
31	守口市	35,293
32	柏原市	35,024
33	茨木市	33,831
34	河内長野市	33,426
35	和泉市	33,411
36	四條畷市	33,007
37	泉大津市	31,594
38	泉佐野市	30,803
39	羽曳野市	30,550
40	寝屋川市	29,995
41	大東市	29,289

※住民１人あたり額は、平成２９年１月１日現在の住民基本台帳人口を用いて計算。また、単位は全て「円」です。

①自主財源は、市町村自らが条例等に基づき賦課徴収した歳入です。住民１人あたりに対しての額ですが、本市は前年の３０位から３２位に変動しており、平成２８年度決算にはイオンモール開業による一定の税収効果が反映されているものの、他市に比べて法人税収がまだまだ低いため、自主財源が乏しい状況にあります。

②職員給は、市民１人が負担している市職員給料の額で、本市は前年の３７位から３６位に変動しており、人口の少ない本市ですが職員数と給料ともに府内で下位クラスであるため、こういう結果になったと考えます。

市職員の人事評価が是正

昨年６月定例議会の私が行った一般質問で「市職員の人事評価について」があります。長畑ひろのり News vol.119 にて報告しましたが、再度以下に書きます。

・・・私自身、昨年度は議長でありながら、議会事務局の誰一人評価をする事はありませんでした。任命権者は議長でありながらです。これは教育委員会も同じです。つまり、本市においては議会事務局長の最終評価者は議長でなく市長、そして、教育部長の最終評価者は教育長でなく市長なのです。

この事に対し質問をしました。行政側の答弁は、法の主旨にのっとれば任命権者が評価者で間違いないが本市は独自の条例で市長を最終評価者としているとの事でした。

しかし、この評価者を変えない限り、議会事務局は市議会のために動くのではなく市長にとって良いように動くのではないでしょうか。市議会と行政が両輪の輪となり四條畷市政を進めていくのであるならば、我々議員は相当なリスクを負っていると考えますし、結果として市民のためになりません。

議会事務局を例にとりましたが教育委員会も同じであり、総務部局へ同様に是正を求めました。・・・

それが今年度、理事級、部長級である議会事務局長においては、最終評価者が市長より議長となり、同様に教育委員会においても、次長級以上の最終評価者は教育長となりました。

被評価者の職階	第1次評価者	第2次評価者	最終評価者
理事級、部長級	副市長	—	市長
次長級	部長	副市長	市長
課長級	次長又は部長	部長	部長
課長代理級	課長	次長又は部長	部長
主任級	課長代理又は課長	課長	部長
主査	主任又は課長代理	課長	部長
上記以外の職員	主任又は課長代理	課長	部長

↑ 昨年度までの「四條畷市の人事評価に関する規則 第４条の表」より